

復興公営住宅から眺めた新門脇地区東側。左が旧門脇小学校

明日へと響け 復興のつち音

このコーナーでは、石巻の復旧や復興の様子を紹介します

新門脇地区 基盤整備工事が完了 住みよいまちづくり 式典で誓い

夏祭りで住民の親交も図る

門脇地区で道路や宅地整地などの基盤整備工事が完了し「新門脇地区被災市街地復興土地区画整理事業」の竣工式が8月18日、旧門脇小学校南側の「かどのわき中央公園」で行われました。事業主体の市、委託を受け整備に当たった独立行政法人都市再生機構（UR）、地元町内会などから約200人が出席、完成を祝いました。式典に合わせ、平成28年6月に結成した「かどのわき町内会」（本間英一会長）の夏祭りがあり、新しい街のスタートを共に喜び合いました。

式典あいさつで亀山紘市長は「安心して安全、住んで良かった、戻って来たいというまちにしていきたい」と述べ、本間会長は「多くの出会いが生まれ、新たなまちづくりにつながることを期待します」と呼び掛けました。

事業はURが2014年8月に着工。計画面積23.7㍍、91億円の大規模事業で、防災力の高い街並みを目指し、津波で被災した既成市街地を最大3㍍かさ上げしました。東西に走る高盛土道路の南光湊線の内陸側に宅地や復興公営住宅、3カ所の公園を整備。復興公営住宅は16年10月に門脇東（61戸）、同年12月に門脇西（90戸）で入居が始まりました。



竣工を祝う関係者



6階建ての門脇西復興住宅。津波避難ビルの役目も担う



約3㍍以上かさ上げされた高盛土の幹線道路



子どもが伸び伸びと遊べる公園も整備



輪投げなどのゲームを楽しんだ夏祭り



新門脇地区被災市街地復興土地区画整理事業